

(1) 単元名：角柱と円柱

(2) 本時の目標： 底面、側面の形、位置関係を調べることを通して角柱、円柱を理解する。

今年度3度目の訪問。夏休みの校内研修の講師として、そして9月の校内研修における授業を参観させてもらい、今回が3回目の訪問になる。午後からの開始であったが、私の方から、1コマ1教室の授業を参観させてくれないかと頼み込んでみた。うれしいことに手を挙げてくれた職員がいた。・・・感謝です。

ゆっくりのでのいです。とにかく、ここでは校長先生のビジョンの具現化に向けて、職員が手を取り「私なりに進み行く」ことなのです。本日も素敵な授業を拝見させてもらいました。



(時間 00:00)

1:30 [前時までの想起] お菓子箱をもって前時をふり返る。身近な具体物であることが何よりもうれしい。



写真①

。「四角柱には角がある。」「円柱の横は角がない」「底が円い」「底が同じ大きさ」など。授業者の言葉が柔らかい。表情がいい。子ども達が安心して授業に臨んでいることが

分かる。写真①、TVを使い、側面と底面の定義をおさえる。子どもの素朴な疑問が出た。

「四角柱は横に寝かせたら底面と側面が変わってしまうの?」…授業者は仲間につなぎながら丁寧に子どもの「分からない」を解明した。実に身構えのない、しっとり穏やかな授業の入りである。ナイス!

8:00[本時のめあて] 授業者の声に子ども達が一齐に反応し鉛筆が動き出す。きびきび、カリカリでなくしなやかに皆が同じ行動に移る。教師の言葉がしっとり子どもの心に届いている。



さらに、授業者はめあての言葉を子ども達の声でつないで完成させた。

本時のキーワードとして「底面」「側面」の2つの言葉をおさえる。



12:00 [課題①：角柱の底面と側面の関係について調べよう] →グループへポードを配布!



写真②

すぐに聴き合うグループと、しばらく各々で考えるグループがある。

クラスは、様々な個性を持った子ども達の集団で構成されている。当然ひかえめで静かな子もいる。彼ら彼女たちのことを分かってあげたいどのグループを見ても互いに向き合い聴き合っている。控えめな女の子も仲間の対話に視線を注ぐ。

17:00 : Sさん「先生、角柱ってなんね?」…今更ではあるが授業者は丁寧に返す。写真②、女の子から「垂直」という言葉が出る。夢中に語る側と、夢中になって聴く側である。

20:00 : 共有する。写真③、授業者の言葉と表情が柔らかい。実にいいしっとりした空気が漂う。授業者は一人ひとりの言葉を丁寧に拾って、さらに仲間につなぐ。

「同じを見つける」「違いを見つける」「『なぜ?』を問う」算数の共有ではこの3つの眼を大切にしたい。

「解答の筋道や根拠」を語るのか、「僕の考え方」を語るのか?似ているようでちょっと違う。「解の解説」の後にはぜひなぜそのように考えたのか「僕の考え方」を聴きたい。・・・難しいかな?



写真③

28:00[課題②：円柱の底面と側面の関係について調べよう] →グループへ



本日 2 回目のグループである。時間が少ないため授業者は 2 分を設定するが厳しいものになる。しかし、子ども達はめげていない、グループになるとすぐに「聴き合う」とくに、1 グループと 2 グループの学び合いが活発になる。・・・写真④、共有する。

子ども達から素朴な疑問が出る「円柱の側面は底面に対して垂直と言えるのか？」円柱の側面と底面の接点が曲線であることに説明のものがきをつくる。→聴き合うが必然となる。

授業者：円柱を立てておいたときに見える。側面の端と底面の接点を説明する。

「直角」：角度が 90 度であること。

「垂直」：線や面の接点の関係。



写真④



共有の前半に、授業者は気になる S さんへ、別の仲間が話した考えを、具体物をもってもう一度説明を求めた。S は仲間の力をかりながら答える。素晴らしい授業者の気づきである。こういう子にとって退屈が一番の天敵と考えてよい。聴いているだけより語らせた方がよい。

36:00[ジャンプ課題：これは（チョコのお菓子箱）角柱と言えますか]→グループへ

まず、テキストがいい、小学生の誰もが食いつきたくなる材料である。さらに「面白い」

- ・ 2 つの底面が同じ形だが大きさが違う。
- ・ 側面は同じ形だが、垂直でない。

3 グループで、底面と側面の垂直でもがくさらに、2 つの底面の大きさが違うことを「角柱でない」ことの根拠にする。

写真⑤、1 グループ模型を中央に置き、ボードには、「グループの結論でなく各々の考

を記す。→「さまざまな考えにふれる。」これが共有の目的である。ナイス！

写真⑥、静かな女の子の顔がゆるむ、素敵である。保護者が参観していたら…「安心」本日 3 回目のグループでの学び合いであったが、時間がたつにつれて、グループでの学び合いは確実に深まっていた。

▲ 時間ももっとほしかった。！



写真⑤

写真⑥



44 : 00[ジャンプ課題の共有へ]

子ども達の視線と授業者の表情が抜群にいい！

「角柱である」→2 つのグループ

「角柱ではない」→2 つのグループ

学び合う、聴き合う必然が生まれた。この後授業者は、グループの結論に関係なくディベートのスタイルに変え、学び合いを設定する。しかし、時間がなく次時へ持ちこされた・・・残念！



T・H先生ありがとうございました。感謝します。

すてきなクラスですね、今日は少人数指導で半数の子どもしか観れませんがクラス全体の風土がおよそ想像できます。みんな互いをよく理解し聴き合っています。静かな子を無理にしゃべらそうとはせず、自ら語りだす時をじっくり待ってください（アプローチと気遣いは常に）、今日の授業では、一人も投げ出したり、仲間との対話から逃避する様子はありませんでした。「これまで」よりも「これから」を見つめる教師であり、常に子ども達のための授業づくりに教師のプライドをもちたいものです。

右写真、この子の笑顔が教室から失われた時、この教室は確実に壊れます。（バロメーターとしたい）

国頭学びの会ゆい

